

東市と東堀河の出土品

東九条町 平城京跡 奈良時代～平安時代初期（8世紀～9世紀）



東堀河にかかる橋

平城京には右京ににしいち西市、左京にひがしいち東市という官
 営の市場があり、物資の輸送をするための運河、
ひがしほりかわ東堀河が東市の推定地内を流れていました。この
 川跡からはどば土馬、じんめんぼくしよどき人面墨書土器、ひとがた いぐし人形、齋串など、
 まじないに使われ、川に流されたまつりの道具、奈
 良時代のわどうかいちん (かいほう)和同開珎（708年初鑄）、まんねんつうほう萬年通寶
 （760年初鑄）、じんぐうかいほう神功開寶（765年初鑄）、平安時代の
りゅうへいえいほう隆平永寶（796年初鑄）、ふじゆしんほう富寿神寶（818年初鑄）



土馬

などの銭貨、役人の
 帯飾りであるどうか銅銚、
せきか石銚や石銚の未成品
 など都びとの暮らし
 をうかがわせる遺物
 が出土しています。



人形・齋串



人面墨書土器



役人の帯飾りの
 未成品と原材料



役人の帯飾り



銭貨